

悲観主義的楽観主義

ラング なるほど、お宅は悲観主義者なんですか。

カール・ファレンティン それで、あなたは？ 楽観主義者ですか。

ラング ええ。

KV すべてがバラ色に見えるって訳だ。

ラング その通り すべてが！

KV バラも？

ラング そりゃあ。お宅にだってバラはバラ色に見えるでしょう。

KV ええ、まあ。でも、私にはバラがバラ色に見える唯一のものなんです。

ラング すると、この世はどう見えてるんです？

KV バラ色ではない。「この世はすばらしい」と昔の歌は歌ってますがね。

ラング なぜですか？ この世をすばらしいと思わないのですか？

KV まるで！ どこがすばらしいものですか。生まれる時からしてもうすばらしくない。それともひょっとして、お産がすばらしいものだとでも？ 産婆か助産婦に聞いてご覧なさい。

ラング まあ、すばらしいものとは、言えんでしょう。でも、あれはあんなものですよ。

KV そうですとも、あれはあんなものです。すばらしくないものです。あれが、あんな風でなかったら、すばらしかったらうと思いますよ。

ラング でも、もしあれがあんなでなかったら、あなたはこの世に生まれてなかったでしょう。

KV そうならどんなにすばらしかったらう。

ラング もし皆があなたのように考えたら、誰もこの世にいらなくなっちゃう。

KV そうだったらどんなにすばらしかったかと私は思いますかね。

ラング 誰にとって？

KV この世に生まれなくてすんだ人間たちにとって。

ラング しかし、この世に生まれていない人間は、この世がすばしいかすばらしくないか、判断できないでしょう。

KV そういう人間たちが生まれなかったことはすばらしいことですよ。

ラング どういうことですか？

KV 例えばですね、三十年戦争はご存じでしょうか？

ラング もちろん。

KV あの時代に生きた人々がどんなに苦勞をしたことか。想像できますか？

ラング ええ、あの頃の人々はひどい目に合いました。戦争の恐怖に加えて、飢饉や疫病。

KV そうでしょうか？ あの時代に生まれたかったですか？

ラング いいえ、絶対いやですね。

KV ほらね。あの時代に生きていなくて、良かったでしょうか？

ラング もちろん。

KV ですから、まだ生まれてない人にとっても、それが良いことだとおわかりでしょう。そしてまた、地上での生活の後、もう生きなくていいというのも人々にとつてありがたいことなんです。

ラング はあ。でもお宅の哲学的見解では、人生そのものにはまったく触れないんですね。

KV ちょっと待つて下さい。さまざまな人生があります。例えば短い人生。生まれて一時間後に死んでしまう。これなんか良い人生でしょうか？

ラング まさか。長い人生もありますよ。百年以上生きて、まだもつと生きたいと思っている人もいます。

KV むろん、そういう場合もありますな。でも、そういう年寄りや自分の人生から、それをまだ人生と呼べるとして、その先、何を得るといふのでしょうか。すっかりひからびて、ほとんど石みたいになつてゐるんです。半ミイラだと言つてもいい。もう死ぬしか能がない。

ラング 死ぬしか能がない、ですって？ 聖書をお読みなさい。アブラハムは七百歳になり、五百人の子供を持つたんですよ。

KV ちょっと、ちょっと、それは水増しです。子供の数は四百人きりです。